

114
A 4154
23



別紙訓導官地嶽夫外臺人ヨリ
差出度見込書篤下相紀度
阿部真遠ナニモ某妓在生度
舟楫於本省海取紀之上福家
系有之度此水奉白度

西郡

管長

壬申九月一日

大正十一年四月



本省

流中

恭
喜
年

辨正洋教

初輯

阿部真造稿

明治三年



辨正洋教

初輯

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

阿部真造稿

○彼教中安置スル所ノ耶穌十字ノ像其
 母瑪利亞等ノ像ヲ始メ都テ偶像ヲ拜
 スル之意蓋シ木塑無靈拜スルニ足ラ
 ス但シ常人ハ無形ノ神靈ヲ欽崇スル
 ニ當リテ目ニ視ルモノ無ケレハ敬意
 ヲ致ス能ハス故ニ假ニ偶像ヲ設ケテ
 真像ヲ思ヒ出サシムル爲也
新教ハ其真像
 混交ヲ恐レテ
 偶像ヲ拜スベカラ
ユカリシヤ
 サルノ誠アリ是カ爲也 但シ別ニ聖体ナルモ

ノアリ是ハ彌撒ト云ヘル大祭中ニ蒲
菖酒ト麵餅ヲ化シテ耶穌真ノ肉軀ト
ナレ是ヲ聖体ト稱シ常ニ堂中ニ安置
ス是偶像ニ非ス真ノ耶穌ナルユヘニ
拜禮之式殊ニ嚴ナリ耶穌ハ即チ天主ニシテ
成セサル故ニ在ラサル所
ナレト雖モ肉体ヲ具シテ人ニ現化
ヘキ所ハ天堂ト聖体ノ中ニ在リト云凡ソ教ニ入
ル者此聖体ヲ領セサレハ天主ノ恩寵
ヲ養成スル事能ハスシテ死後靈ヲ救
フヲ難シ喻ハ日用飲食ノ飲ヘカラサ
ルカ如ク若飲食ナケレハ身ヲ保ツフ

叶ハザル之理也故ニ蒲菖酒ト麵餅ト
ニノミ耶穌ノ聖体ニ化ス也其他何ノ
酒何ノ餅ヲ以テスト雖決シテ耶穌ニ
化セスト遺言アリ新約全書ニモ
此事ヲ載セタリ

余曰ク是則チ天主教ハ西洋一般之教ニシテ萬
國ニ公行スヘカラサル明證也教祖ノ主旨モ亦
是也如何トナレハ彌撒ハ教中最大典ニシテ
既ニ天主十誡ノ第三ニ瞻禮之日彌撒ヲ拜スヘ
シ是ヲ犯ス者ハ死シテ永苦獄ニ墮スト云然ル
ニ此彌撒ハ蒲菖酒ト麵餅ナクシテハ行フベカ

ラサル之嚴規也而シテ此兩種ハ唯西洋之常食
ニシテ東洋諸國之曾テ無キ所也然レ^{東洋國}ハ彼^聖聖體
ナルモノ有ルヲ得ス固ヨリ日曜日及ヒ^{瞻禮}瞻禮ノ
日ニ彌撒ヲ拜スル能ハス因茲此教誠唯西洋ノ
俗ニ隨テ其爲ニノミ立設ケタルニ非スヤサレ
ハ日本人ノ如キハ^{假令}教ニ入ルト雖モ既ニ誠ヲ犯
シテ永苦ノ罰ヲ免レス又聖體ヲ領シテ靈ヲ救
フ能ハス教ニ入ルト益ナキノミニ非ス又從テ
罪ヲ増ス也^{彼徒不知シテ犯ス罪ニアラ}
教師ルカイ答テ曰彌撒ハ^{サセルトラス}鐸德^{又神父}トモ云

^{教師之}
^{階級也}

之外行フベカラス凡ソ教ヲ弘
ムルノ國ハ必ス鐸德在ラサルナシ
鐸德ハ皆洋人洋人ハ他國ノ飲食ヲ喫
セス何ソ蒲萄酒麵餅ナキヲ患シ

余曰支那安南等ハ土人ノ鐸德ニナル者少カラ
ス我日本モ慶長元和之頃國人ニシテ鐸德ノ位
ニ昇ルモノ少カラス^{凡四十人}且諸教師皆常ニ云
我輩外國ニ來リ生徒ヲ教育スル所以ハ土人ヲ
シテ鐸德ノ任ニ勝ル者ヲ選舉シテ其位ニ昇ラ
シメンカ爲也教ヲ布ク事ハ土人ニ非レハ言語

モ通セス土情ニ達セスシテ便益ナラサル也故
ニ土人之鐸徳ヲ多ク作り得ルニ及ンテハ教事
悉ク委任シテ吾輩ハ去テ他ニ行ク也ト然ラハ
若果シテ土人ノ鐸徳多ク出テ洋僧回リ去ル時
ハ土人之鐸徳ハ必ス自國ノ飲食ヲ需ム蒲萄酒
ト麵餅ナキハ必セリ如何シテ弥撒ヲ行ヒ聖体
ヲ作ルヤ

彼答テ曰法王其時臨時ノ恩^敬アリテ
弥撒ヲ拜セス聖体ヲ領セズシテ天主
ノ恩寵ヲ賜ル事叶フ也

一日余又曰法王若天主ノ十誠ヲ破ラハ如何

彼答曰大罪也平人ニ比スレハ萬倍

余又曰時勢國俗ニ因テ天主ノ十誠行レ難キ時
法皇隨意ニ是ヲ改メハ如何

彼答曰決シテ改ル_レヲ得ス教會ノ規ハ
時ニ隨テ改ムル_レトフト雖天主ノ十
誠ハ歿スト雖違フ事叶ハサルノミナ
ラス少カ枉ル事モ大罪也

余曰ク然ラハ蒲萄酒ト麵餅ナキ時法王臨時ノ
恩赦アリテ弥撒ヲ拜スル事ヲ廢スルハ如何

彼答テ曰其時假令法王ハ臨時ノ恩赦
ヲ行ハント欲ス氏天主必ス酒ト麵ト
ヲ絶ヘシソス既ニ今日本モ交際之道
日々ニ開ケ鐸德ナシト雖麵酒ナキヲ
患フルニ至ラス是天主ノ全能實二人
之意表ニ出ツル者也

余曰朝鮮國外交未夕開ケサルカ故ニ鐸德支那
人ニ擬シ竊ニ雜入シ民家ニ潛寓シ米飯ヲ食シ
箸ヲ用ヒ米酒ヲ飲ミ支那服ヲ穿ツト聞ク彼常
ニ謂鐸德教ヲ天下ニ弘ムル也ソノ苦辛實ニ云

ベキナシ朝鮮ノ如キハ未タシ人ヲ啗ヒ穴ニ居
ル國ト雖モ詳スルコト能ハスト如此國々葡萄酒
麵餅ナシ日曜日ニ甞テ弥撒ヲ行フヤ否

彼曰廢スル也已ムコトヲ得サレハ也蓋
シ天主是ヲ知ル

以上應答ノ両舌ナルコト多言ヲ教員セスシテ
明白ナリ彼教ヲ信スル者憂ヲ拂テ考フ
ヘシ

○彼教中四個ノ大瞻禮アリ耶穌復活聖
神降臨聖母昇天耶穌誕日是也但シ此

内聖母昇天ハ舊教ニシ有テ新教ニ
是ヲ行ハス舊教ハ佛朗西ヲ最トス英
臣亨瑞等ハ新教ナル故ニ此禮ヲ行ハ
ス然レモ佛國ノ大瞻禮ナル故ニ其日
ハ佛ノ爲ニ自余ノ英臣等ヨリ祝炮點
燈等ノ禮アリ然ルニ千八百七十二年
聖母昇天ノ瞻禮日都テ例規ヲ廢ス是
此年佛ハ寺ノ爲ニ敷ラレ玉ハ捨ト
ナリケル故也

余曰ク吾常ニ聞ク天主ハ萬國之共主ニシテ其

教規ハ萬古不易也ト然ルニ最大^典之瞻禮規ヲ
一佛國之故ヲ以テ廢スルハ何ソヤ

彼曰英臣瑞等ハ新教ナル故ニ聖母ヲ

尊崇セス徒ニ佛國ノ爲ニ祝スルカ故

ニ今年其禮ヲ行ハズ

余ノ曰ク英臣等ハ左モアルベシ去リナカラテ天
主ノ使臣タル鐸德ノ行フヘキ天主堂中ノ莊嚴
并ヒニ大祭典ヲ畧スルハ如何

彼曰我等皆天主ニ奉事スト雖生國皆
佛ナレハ其進退ヲ受クルガ故ニ憚ラ

サルヲ得ス

余曰然ラハ意大利亞以西波尼亞ノ鐸德ハ平年ニ變テス瞻礼ヲ行フ歟

彼曰勿論也自余之國ノ神又ナラガ何ノ憚ルヲアラシヤ

此其國ニ生レテ其國ニ隨フ是萬國之公法也國王ヲ次ニシテ天主教ヲ先トスルハ彼等モセサル處也然ルニ天主教嚴禁ノ國ニ未リテ常ニ愚民ヲ惑シテ曰ク天主ハ萬王ノ玉ナル故ニ國王ニ背クハ天主ニ背クヘ

カラスト空理ノ私言ナラスヤ況ヤ

皇國之民タル者彼カ誑誘ニ欺カレ皇民タル事ヲ忘ルヘカラス

○彼教中ノ式ニ告解ト云テ人々自分ノ

思言行ノ惡ヲ大小トナク悉ク教師ニ向テ竊ニ吐露シテ其罰ヲ受ル事アリ若シ耻テテ隱ス事アレハ至明ノ天主必ス嚴罰ヲ降スト云故ニ人々罪ヲ犯スマシトテ平日勉勵シテ退惡修善之

域ニ至ル

余常ニ疑フ是人ノ隱私ヲ訶ク方法ニシテ後日
處分^ノ之術用トスルナラン然レ氏書ニ載スル處
教師ノ説ク處ヲ聞クニ告解^{コソコソ}之際鐸德聞得タル
罪科ハ一小事ト雖他ニ洩ス歟或ハ鐸德心中ニ
記シ貯ヘテ他日其人ヲ處スルノ具トナスヲア
レハ其鐸德ハ大ニ罪ヲ天主ニ得ル抑告解ニ於
テ慚悔シタル罪科ハ如何ナル罪ト雖モ即時ニ
消滅スルガ故ニ鐸德ノ位ニ昇ルモノハ告解ニ
於テ詰問シタル他人ノ罪科ヲ後日ニ思ヒ出サ

ル様忌棄スル事ハ鐸德ノ諸學課中ニ^{於テモ}最大業也
ト云然ルニ一日アソブルスト云ヘル鐸德ト余
雜話之際告解之事ニ及フアソブルス曰ク凡ソ
本國ニ於テ鐸德ノ學業既ニ成テ品級^{フルド}ノ秘跡ヲ
受ケ^{ウケル}神父之位ニ昇リ而行クベキ國モ未タ定ラ
ス勢ムヘキ職モ未タ定マラザル凡ソ一年之際
此輩ハ悉ク一司教ニ請フテ告解ノ式ヲ行フ也
司教ハ其告解ヲ聞テ其人物心性氣質ヲ諳シ各
其才器ニ隨テ諸職ヲ頒チ各國ニ分テ遣リ或ハ
本國ニ留メテ生涯大興ニ管ラサルモノモアリ

故ニ全世界中ニ散布シタル鐸德ノ黜陟昇降ハ
此一司教坐シテ是ヲ行フ一モ誤ルヲナシ凡ソ
一年之久シキ告解ヲ聞クニ於テハ人之心根隱
微念頭洞通セサル事ナシト云

是果シテ人ノ陰私ヲ訐ク之法ニ非スヤ退
惡修善之方何ソ必シモ是ヲ特マンヤ餘別ニ
法アリ

○耶穌ヲ始トシテ世々之教官之中ニ一
言ノ下ニ病ヲ癒シ風ヲ止メ火ヲ銷
シ空ニ騰ルナトノ奇法ヲ行ヒ是ヲ聖
蹟ト稱シ今夕盛徳ニ因テ天主殊勝ノ

恩佑ニ出テ世俗ノ幻術秘法ヲ以テ奇
ヲ現ハス類ト甚夕逕庭アリ其證ハ世
俗ニ間々有ル所ノ奇術術ハ其秘法ヲ傳
受スルニ於テハ惡人ト雖モ易ク做シ
得ル天主教ノ聖蹟ノ如キハ已レ是ヲ
行ント欲スニ成テス唯聖徳純粹ナル
モノ自カラ期セスシテ成ルヲアル也
然ルニ長崎近傍ニ古未潛匿セル耶穌徒之内久
左衛門孫藏吉藏ナト云ヘルモノハ誦經ヲ以テ
病ヲ療シ湯ヲ冷シ修法ヲ以テ他人ヲ縛ス等ノ

秘ヲ傳ハリケルヲ開港後天主教之僧官未ルニ
當テ双方竊ニ始テ相見テ從未執行セシ勤行ヲ
檢査^フ其時右之秘法ハ以後行フベカラスト主
教^{ペツテ}ジ^アン^因ク^戒メ^封シケリ此事山口縣
脱走ノ甚兵衛ナル者親ク其座ニ列リ知ル所也
但シ元即ナル者モサシノ秘法ハ傳リ居タリシ
カ今ハ瘞棄セリ

是ニ知ルベシ一時人ノ信ヲ取ル爲ニ奇^異
ヲ現スル事彼此古今何ソ擇ハシ

○彼教中常ニ曰ク天主ハ天地ノ大君ナ

是亦新約全書ニモ
載セタリ

レハ普天下萬國皆此教ニ入テ奉養ス
ヘキ也故ニ耶穌ノ辭ニ天下ノ人ヲ教
ヘ^テ洗禮ヲ授ケヨト遺言セリ諸教師
皆此遺言ヲ守リテ歿ヲ顧ニス萬國ニ
周流スト云

余曰凡ソ天下ト云者ハ古ハ只自國ヲ指シテ
云フ辭也強チ全世界ト云意ニ非サルヘシ普天
之下王土ニ非サルナシ或ハ天下ヲ平ニシ或ハ
天下ヲ掌握スナトノ^諸倭漢洋共ニ其意皆自國
之事ニ係ル所謂車同軌書^文行同倫ノ^城内ノ事

也但シ方今之形勢ニ列テ始テ天下ノ文字全世
界之事ニ當ル係耶穌ノ所謂天下ト云シモ西洋近
傍當時交通セシ國々ヲ指シテ儀也何リ

皇國ナトノアルヲモ知ンヤ

是亦新約全書ニ
出ツル所也

プワリ教師名怒ヲ現シテ曰ク中々左ニ非ス耶
穌昇天後聖神降臨之當日宗徒十人街
道ニ出テ道ヲ講ス世界中之高人此時如
達國ニ聚集シテアリケリ宗徒ハ天主ノ
恩佑ニヨリテ其言語悉ク萬國之人ニ通
セサル下ナシ是則萬國ニ弘通スベキノ

之徴也

余言ハント欲ス君等天主ノ為メニ死ラ願ミス
難ラレ犯シ誠行ラ保テ其勞當時ノ宗徒ニ倍シ且
耶穌聖体ニ寓シテ其能力古今換ルケレハト
天主之恩佑ヲ蒙ルト亦宗徒ト區別ナシ是件々皆
教師自カラ
言ナリ常然ルニ日本ニ於テ日本語ヲ数年學フト
雖請通セサルハ如何夫レ右へ耶穌ノ宗徒萬國
之言通セリト云フニセリ即チ新約
全書ナリ二見ヘタルトハ
蓋シ彼宗徒ハ原皆漢文ニテ土語訛言ヲ常語トシ
世人ニ通セス耶穌ニ從テヨリ文字ヲ覺ヘ正音

ヲ知ル然ルニ諸國之商人亦各土語アリト雖正
音通話ヲ以テ談スル時ハ其意ヲ解セスト云事
ナシ固ヨリ皆蠻行文字ノ國々ナレハ也然ルヲ余
特ニ徐々トシテ曰當時歐羅巴ノ東部并ヒニ亞
細亞ノ西部一圓羅馬ノ管轄ナレハ矢張一國ト
同シ亞細亞歐羅巴ニ轄ルト雖モ唯地中海迄偏
數國ニシテ耶穌ノ天下ト云ニハ唯北羅馬管中
ヲ指シテノ言ニ非スヤ

ペレシス側ニ在リテ曰ク然レ氏此時
歐羅巴ハ勿論亞弗利加ノ北部厄日多

亞細亞ノ西部ハ即チ如達亞ナレハ三
大洲ニ係ル是全世界之目標也

余唯々トシテ退ク余若シ亞米利加ハ如何ト問
ハハ彼應ニ答ヘン當時未タ聞ケスト

此一件ノ應答其レ是ヲ察セヨ彼レノ遁辭
瞭然タリ

○耶穌生誕ノ日異星顯レ磔死之時太陽
驟ニ蝕ス天象奇ヲ現シテ耶穌ノ實
ニ天主タルヲ知ルノ徵也ト云

余常ニ謂フ後漢光武其故人嚴光徵ニ應ニ來リ

光武ト同シク卧シ足ヲ以テ光武ノ腹ニ加フ明
日太子^史奏ス客星御座ヲ犯ス事甚急ナリト此他
天象ニ奇ヲ現ハスヲ歴々タリ何ヲ耶穌ノ三天
主也トテ尊フニ足ランヤ大罪人ノ法ヲ犯シ刑セ
ラル、時スラ輒毎ニ天曇ルヲ常也ト云ヘル或人ノ
説アリ合セ考フヘシ

○西洋人常ニ字ヲ敬セス其意文字ハ無
靈何ヲ敬スルニ足ラン字紙ヲ惜ミ敬
スルヲハ支那ノ頑情ニ出ルト故ニ洋
人ニ陪從スル日本人ノ少年皆是ニ倣

ヒ書本ノ破レ古ヒタルナトヲ持テ廁
ニ行ク教師一日是ヲ見テ大ニ罵リテ
曰ク天主十誡ノ第一ニ天主ノ名ヲ尊
ビ慎ムベシト及古タリト雖天主ノ言
ヲ載セタル書籍且現ニ天主ノ名号モ載
タルモノ汚穢ノ事ニ遣フ事其罪重シ
ト云

然ルニ教師共ノ厠ニ行ニ當テ白紙ヲ用ヒス輒
チ書本ノ古ビ虫付タルモノ或ハ新聞ノ古キモ
ノヲ持ツナリ

或日一少年日本人也教師ヲ給仕スルモノ余ニ来テ竊ニ

告ケテ曰主教此字紙ヲ厠ニ置ベシト

命シケルガ此字紙悉ク教ノ書ニシテ

デウス 天主ト Deus ゼスス Jesus 耶穌 マリア Maria イサ 等ノ文字

所々ニアリ如何スベキヤ

折節新来ノ教師ウリヨン余カ机側ニ居タリ余

曰此少年云々一如是如何スベキヤ

ウリヨン答テ曰ク主教ノ命スル事ヲ直

チニ行ハズ別人ニ謀ル一不埒ナリ速

ニ其囑付ノ終ニセヨ微事ヲ嚴ニセサ

レハ大事ヲ忽ニスルニ至ル也

余從容トシテ問テ曰^{ラウス} Deus 等ノ文字アル紙ヲ憚

ラス穢ス事可ナルヤ

ウリヨン曰ク厠ニ居ルノ際右之字紙

ヲ取り見テ若シ聖名ノ文字アレハ破

リ捨テル也但シ給仕ノ者毎朝厠中ヲ

掃除スト雖モ破リ捨テタルヲ見ズ

其日余又クジン教師ニ以上ノ事ヲ問フ

クジン曰羅丁字ハ日本字ト違イ一字

ヲ以テ義ヲナサス因テ及右トナリテ

ヨリハ天主ノ名アリト雖天主ノ名ニ
ハアラズ紙ニ墨ノ粘シタルモノト思
フテ宜シ

此件ヲ推シテ實教ニ非サルヲ知ルヘシ

又一日一少年十歳ニナリホ夕教ニ入
ラスト雖入教ノ豫備ナルモノノ廁ニ在
リシヲ教師知ラスシテ堂中ヨリ遽ク
少年ノ名ヲ呼テ事ヲ命ス少年ハ驚キ
忙ク廁ヲ出走テ堂ニ行クブリヨトム
ヘル教師堂ノ戸前ニ在リテ是ヲ見テ

目ヲ瞋シ何シニ手ヲ洗ヒ来ラズヤ

余側ニ在リ微笑シテ曰諸君等皆廁ニ行テ手ヲ
洗ハズシテ直チニ堂ニ入テ誦經シ或ハ經ヲ腋
ハサミテ廁ニ行ク彼少年蓋シ是ニ倣フ也

フリヨ答テ曰洋人ハ常トスル故ニ是
ヲ嫌ハズ日本人ハ廁ニ行ケハ必ス手
ヲ洗フ若洗ハサレハ不作法ナラズヤ
日本人ハ日本ノ式ニ隨フヘシ

余謂ラク日本人ハ日本ノ式ヲ守ルヲ定理ナラ
ハ何故國禁ヲ犯シテ天主教ヲ守ルヲ誣ルヤ

前條既ニ云スヤ微事ヲ嚴ニセサレハ大事ヲ守
ラス微事且國体ニ從フ 凡ソ垢穢ヲ厭イ淨
潔ヲ欲フハ神代ノ遺風 何ッ國
ノ大禁ヲ犯スヘケンヤ

又

- 日本人ヲ誘導スル言ニ曰ク宦ヨリ呵責セ
ラルト雖詞ノ上ノミニテモ天主教徒ニ
非スト陳スル一ハ罪也ト云ニ支那廣西省
ニ傳教スル教師ハ悉ク天主教師ニ非スト
陳スル詔
- フリヨ教師ハ安ニ人ヲ打擲スル癖アル故
ニ日本ノ教師ニナシ難キトノ詔
- 佛國天主十誡中第六誡ヲ破リテ賣娼家ヲ
置クヲ許ス詔

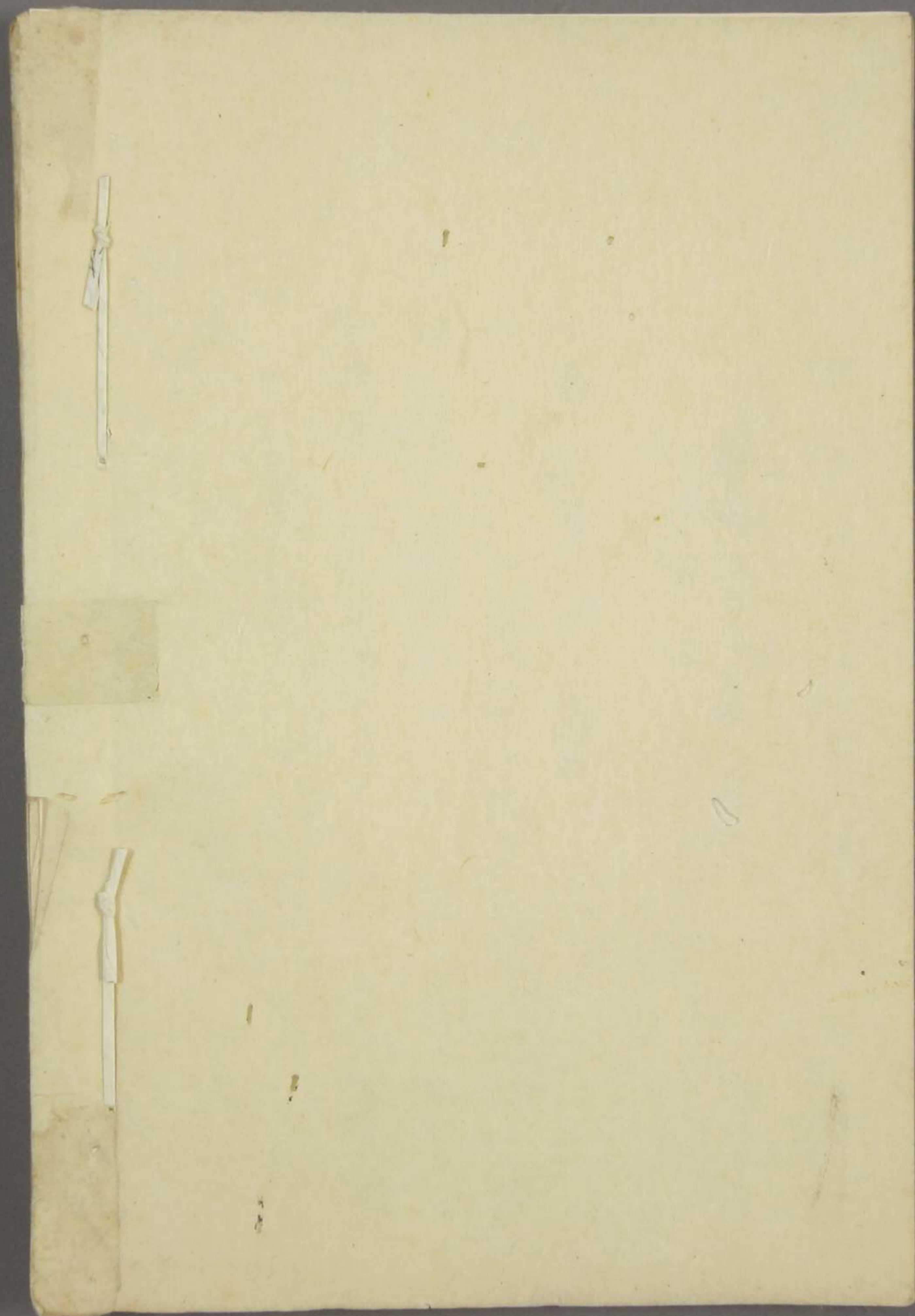
○教ヲ弘メ置テ國ヲ奪フ種トナシタル話
○舊約全書ノ杜撰

以上委ク第二輯ニ出スヘシ

右

命ヲ奉シ遽卒ニ輯記シ校考刪正ノ暇ナク文字
詰路整ハス且情實ヲ失ハンヲ恐レ應答對
話之口氣等潤色ヲ加ヘス其俚ノ真ヲ筆シ夕
レハ字句之際彌體裁ヲ成サス看官諒察ヲ垂
レ給ハン事ヲ希フ敬白

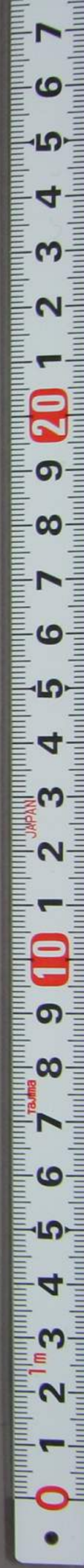
明治五年壬申十月



辨正洋教 第二輯

草案

阿部真造稿



辨正洋教 第二輯

大正十一年四月
隈侯爵寄贈

阿部真造稿

○彼教中ノ規ニ天主ニ背犯スル事最大
ノ重罪ナルカ故ニ若シ宦ヨリ教徒ヲ
捕縛シテ此教ヲ棄テヨト呵責スルニ
當リテ心中ニハ深ク信スルト雖其掠
責ノ窘苦ニ堪ヘズ姑ク言語ノ上ニテ
改心セシト云歟或ハ他ヨリ教ヲ奉ス
ル者ト見知ラレシ事ヲ恐レテ陽ニ神
社寺院ニ詣或ハ札守等ヲ受ケ珠数ヲ

挈ル等ノヲヲスル歟或ハ他ヨリ教ヲ
信スルヤト問レシニ當テ忌嫌レシ
ヲ恐レテ否ト答フル歟ナト皆信徳ヲ
失フ罪ニシテ教會ヲ忽チ脱シ天主ノ
罰ヲ免レズ故ニ若シ官禁ヲ犯スノ罪
ヲ以テ死刑ニ處セラレ、事アレハ是
ヲ致命ノ聖ト稱シ煉獄ヲ經ズシテ直
チニ昇天ノ福ヲ得ル歟後永遠天主ノ
台前ニ在テ福樂比ナシト云

是彼徒他國ニ教ヲ入ル、大秘術ナルヲハ論ナ

シ然レニ此說ニ誑惑セラレ、所ノ教徒ハ是ヲ
真理ト思ヒ信スルガ故ニ宦如何程道理ヲ説諭
スト雖馬耳ノ如クニシテ屈セズ余支那ニ到リ
彼國ニ教ヲ入ル、顛末ヲ觀ルニ唐ノ貞觀九年
宰相房元齡ヲシテ洋僧亞羅本ヲ郊迎シテ都ニ
入レテ留メ其十二年教ヲ天下ニ宣クヲ許ス
此事碑ニ刻シ今西安府五里外大
寺院ノ内ニ存セリ額ニ十字ノ記號アリ而シテ此時未夕航
海ニ便ナラス洋僧等二十一人陸路ヲ經テ未ル
故ニ踵ヲ接シテ到ル事ヲ得ズシテ其教ハ只民
間ニ遺ルノミニテ蔓延ナラス爾後元ノ時猶ヲ

陸行シ未テ直隸江南マデニ及ホシ遂ニ京師ニ
於テ天主堂及ヒ修道院ヲ建ル_トヲ許セリ明ノ
萬曆年中利瑪竇湯若望南懷仁等廿余人代ル_ク
貢物ヲ齎ラシ未リ理辨ヲ以播紳家ヲ服シ清ニ
至テ野心弥增長シ曆学ヲ説クヲ名トシ竊ニ教
ヲ入ル清ノ世祖是ヲ覺ラズ湯若望_ニ以テ通徹
教師ノ号并ヒニ天文曆法可傳永久トノ扁額ヲ
與ヘ銀一萬兩ヲ捨シテ堂宇ヲ建テ勅建天主堂
ト扁額ヲ與ヘ爾後狡猾至ラサルナク當今所ト
シテ天主堂在ラサルナク縣トシテ教徒在ラサ

ルナシ然ルニ唯廣西省ノミ古ヘヨリ土俗剛強
ニシテ教ヲ入ル、事ヲ好マズ既ニ官許アリテ
傳教之教師江_江往來ノ免書ヲ與フト雖廣西省ノ
土人ノミハ耶穌教師ト見レハ輒チ闇殺スルヲ
以テ常トス其時々全權公使ハ官ニ逼リ官亦因
循姑息シテ適宜ノ處置ヲ果サズ因是廣西省ノ
天主堂ヲ建ル事ヲ得ズ但竊ニ民家ニ入テ僅
ノ愚民ヲ引誘セリ故ニ教師モ_{子ビス}牧_{支那各省ニ人}
兼テ_{カレドテス}一名ト鐸德一二名ニ過キズ此數名ノ教師
ハ常ニ廣東省天主堂境内ニ一廬ヲ建テ住シ時

ニ臨テ支那服ヲ穿テ頭髮ヲ剃リ支那語ヲ學ビ
支那人ノ信者ヲ伴ヒ高客ニ擬シテ廣西省ニ行
ク廣西人其面容ノ異ナルヲ見テ傳教師ナラス
ヤト問フ事アレバ陪從ノ支那人高客ノ印符ヲ
出シテ其否ルヲ證トスル事アリ是余廣東ニ於
テ親ク見ル所也因テ余ゼナワス
是支那四川省ノ教
師時ニ香港ニ寓ス
ト云者ニ此事ヲ難シテ曰我等日本ニ於テ教ヲ
受ル所ハ若シ他ヨリ教徒ナルヤト問ハルニ
於テハ必ス陳スヘカラズト聞ク廣西省ノ教師
ハ何故陳スル乎

ゼナワス答テ曰自カラ陳スルニ非ス
又言ニ發セズ別人陳スル也教師ノ罪
ニアラズ

一日ルカ
ルカイ教師ニ又此事ヲ問フ

ルカイ曰我知ラズ夫レ國毎ニ鑿牧ズビスユホアリ
テ教師ヲ管ス其鑿牧ノ命ノマ、也
余又マルセルニ問テ曰教師ニシテ教師ナルヲ陳スルト教徒ニシ
テ教徒ナルヲ陳スルト何ノ區別アル乎

マルセル答テ曰教師ノ陳スルヲハ罪
最重シ

余曰然ラハ支那ノ教師ハ何故廣西省ニ於テ陳スル乎

マレセル曰教師ノ陳スルノ意ハ天主
教ヲ弘メシ爲ニ心專ラナルカ故ニ天
主ヲ愛スルノ至也教徒ノ陳スルハ我
生命ヲ惜ムヨリ出ツル是我身ヲ愛シ
テ天主ヲ次ニスル故ニ陳スヘカラス

余曰教徒ト云ヘニ篤ク信スル者ハ固ヨリ死ヲ
顧ミス但此教ヲ一人ニテモ勸化シテ弘メシ
ヲ專ラ希フ故ニ姑ク陳シテ生命ヲ保チ其素志

ヲ遂ント思フ者少シトセズ如此者ハ教師ノ教
ヲ弘メントスルヨリ其功大ナルニ似タリ然レ
氏亦我身ヲ愛スル者ニ當ル乎

マルセル曰品級ノヲルド秘跡サカランノ鐸徳ニ任セヲ授ラ

サル者ハ其愛心切ナラズ故ニ常人ノ
愛心ハ窮難ノ時ニ當テハ危シ總テ教
師ノ行状ニ就テ疑ヲ容ル、事ハ大罪
ナリ品級ヲ授リテヨリハ司教教師各
天主ノ權アリテ時ノ宜キニ從フ也

此一件ノ遁辭如何ニモ抱腹ニ堪タリ品級

ノ秘跡ハ唯鐸德ニ昇ルノ式ニシテ天主ヲ
愛スル心ヲ堅ムルハ堅振ト云ヘル秘跡也
且既ニ支那人ノ品級ノ秘跡ヲ授リテ鐸德
ニ昇リシ李方濟各ナル者戒ヲ破リテ常人
ニナリシヲ司教種々説諭シテ復位セシメ
ント百計千方スレモ遂ニ聴カサル者ナリ
廣東ニ行テ是ヲ知ル其他
往々幾人アルヲ知ラズ 是亦天主ノ權ナルヤ
品級堅振果シテ何ノ妙アルヤ

○ブリヨト云ヘル教師アリ是原支那ノ
教師ナルヲ我明治三年日本ニ来ル而

シテ未夕日本語ニ就セズ給仕ノ日本
少年ニ事ヲ命スル動モスレハ支那語
ヲ發ス少年思ハズ笑フ欲或ハ余セラ
レシ事ヲ忌棄シテ行ハサル欲或ハ誤
テ事ヲ違フ欲ナトスレバブリヨト神父
忽チ蹴且打擲ス自余ノ教師ハ決シテ
吾ラス假令誤テ珍器ヲ傷フ欲事ヲ忌
ル、欲スルモ唯溫和ニ説諭スルニ過
キズ是彼教規天主十誡ノ第五二人ヲ
殺スヲ勿レノ條目ニ婁二人ヲ打人ヲ

耻カシメルヲ禁シ又人ノ誤ヲ赦シ
人ノ短ヲ忍容スルヘシ等ノ規アルヲ
實ニセンカ爲也

一日教師ルカイ最温和ニシテ
教徒ノ服セシ者少年ヲ集テ雜話スル
中ニ各教師ノ故郷ノ地名方角等ノヲニ至ル余
亦其座ニ在リ話ブリヨ教師ノ生國ノ地名ニ及
フ時一少年曰ブリヨ神父ハ甚夕恐怖スレテ堪タリ
ルカイ曰何故ニ

少年笑テ答ヘズ側ヨリ一少年ノ稍
長スル者笑ヒナガラブリヨ神父ハ

動モスレバ蹴タリ打タリセラ
ルハ故也

又一人曰神父ハ人ヲ打又モノト思
ヒシニ彼神父ノ如ク妄ニ人ヲ打ツ
神父猶本國ニ在ル乎

ルカイ曰在ルヲナシ但ブリヨ神父ハ
久ク支那ニ住セリ支那人ノ氣質甚ク
剛抗不良ナル故ニ打タサレハ情ナリ
因茲彼ノ神父終ニ癡トナリシナラン
二三日ヲ經テ鑿牧ペツテジアル余ヲ

彼レカ部屋ニ招キ竊ニ余ニ謂フブリヨ
神父ハ家頼日本人、給仕スル者ト稱スヲ妄ニ打ツ
事アル歟

余答テ曰我未夕見ズト雖家頼共ノ告ニ因テ聞
クニ屢々打擲ニ遇フ由

ペツテジアン云夫レテハ日本ノ傳教
師ニハ可ナラズ

余曰彼レ支那ノ風習未夕脱セズ日ヲ追テ化ス
べシ

ペツテジアン曰支那其他ニ拍ラズ神父

ト云ヘ凡誠ヲ全ク保ツモノノミニモ
非ズ然レ凡日本ノ如キハ未夕公然ナ
ラザルニ教ヲ入ル、フナレバ能ク誠
規ヲ守テ人ニ信ヲ取ル者ナラズシテ
ハ可ナラズ實ニ肝要ノ時也若シ鐸德
ノ中ニ何事ニ限ラズ不都合ノ事ヲ見
聞スルニ於テハ直ニ我ニ告ケ給ハレ
是人ヲ誇ルニ非ス天主ノ爲ニ功トナ
ル也

余曰諾

後數日ヲ經テブリヨ神父ハ鑿牧ヘツ
テチアソ之命ヲ受テ歸國セリ

是ニテ日本ニ教ヲ入ントスルニ就テ特ニ
心ヲ用ユル事此一端ヲ見テ知ルベシ

○アソブルス教師一日余ト佛朗西ノ地
圖ヲ按シテ各州府ノ土俗人氣ヲ談ス
ル之際圖ヲ指示シテ此地ハ能ク教ヲ
守ル此地ハ人氣暴ニシテ教ヲ守ラズ
此地ハ賣娼家多クシテ邪淫多クシナド
云

余曰教中邪淫之誠最嚴也貴國全國天主教ヲ
奉シ賣娼家アルハ何ノ故乎

アソブルス曰都會繁華之地ハ人放蕩
ニ流レルト常ナレバ也

余曰私ニ賣娼家ヲ置ク欲或ハ宦許欲
アソブルス曰宦許也

余曰國王始メ宦負皆教ヲ奉シ而シテ是ヲ許ス
何故教師諫止セサル乎

彼曰教ハ人々各靈ヲ救フ道ナル故ニ
國王宦負皆是ヲ守ル因茲教ニ關係ス

ルヲナラバ人々各教師ノ命ヲ聞クト
雖國政ノ事ニ就テハ教師與リ聞ク事
能ハズ若シ教規ニ違ヘル政令アルニ
當テ假令教師諫ヲ入ルト雖宦負皆云
是政事也國ヲ治ムルノ道也靈魂ヲ救
フ道ニ非スト

夫レ國政ニ及リテ教ヲ主張スル事此一端
ヲ以知ルヘシ佛國ノ教師既ニ然リ况
皇國ノ民タル者ヲヤ

○教師ルカイ余ニ問テ曰日本政府何故

我天主教ヲ嚴禁スルヤ

余曰我レ其嚴禁タル所以ノ意ヲ知ラス凡三百
年前ヨリノ禁令ナレハ我等其緣由ヲ窺フ事能
ハス

ルカイ曰先生ノ察スル處ハ如何

余曰蓋シ我朝

神孫連綿タル國体ナル故ニ貴教ヲ弘ムルニ於テ
ハ^{フシ}亞當^{エワ}厄^リ襪^クノ後^ノ諾^リ厄^クノ長^シ子^ニ生^ム之^ヲ苗^ノ裔^トノ^ハ說^キ起^リ
神社ヲ毀テ

皇上ヲ奉戴セズ國体ヲ^ヤ壞^ルリ且俗說ニ外國人教ヲ

以テ民心ヲ蠱惑シテ方向ヲ変ヒサセ國ヲ奪フ
之根據トナス之説久シク浸潤セシ故ナラン歟
ルカイ曰然リ外教ノ國人ハ皆疑フ國
ヲ并吞セン爲ニ教ヲ以テ民心ヲ懷ケ
ルトノ謗リアル事只日本ノミナラズ
然ルニ先生原外教之人ニシテ今^此教ヲ
信スル如何ト^切思フ

余曰天主教之理ハ善也善也但耶穌降生ノ事ニ
至テ疑ナキヲ得ズ然レハ世俗ノ論説アルモ亦
宜ナリ

ルカイ曰我教ハ信ヲ以テ重シトス信
ハ耶穌ノ天主タル事ヲ信スルヨリ大
ナルハナシ若是ヲ疑ヘハ罪極テ重シ
但人ハ歿シテ罰ヲ受ケ政府ハ現在ニ
罰アリ

余曰政府ハ現在ニ罰アリト云ハ如何ナル事乎
ルカイ曰天主ハ人ノ歿後ニ賞罰ヲ加
ル事適宜ナリト雖政府ハ現世ノミ
ニシテ後生ナシ因茲天主教ヲ嚴禁ス
ルノ政府ハ必ス亡ビサルヲ得ス近ク

呂宋^ノハ西班牙^ニ取ラレ^ル呂宋ヲ取リ^{佛朗西}安南^ニ取ラレ^ル皆政府ニ當ル^{現世}所ノ罰也

余曰天主十誡ノ第七ニ偷盜スヘカラス然ルニ天主教ヲ奉スル國ハ教ヲ弘メ置テ^{其國ヲ}後^ニ并吞セ^ルル事ハ大偷盜ナラスヤト世間ニ言フモノ多シ他ノ國ヲ取ル所ノ政府モ亦罰アル乎

ルカイ曰是レ私ニ取ルニ非ス天主教ノ弘マル爲ノ處置ナレハ總シテ取ラレタル國ハ以前ニ倍シテ盛ニ行ハル、モノ也我等ハ世ヲ棄テ家ヲ辞シ妻

子ヲ帶セス財ヲ私ヒセス何ソ他ノ國ヲ奪フニ意アラシヤ國王ヲシテ取ラシムルハ天主ノ處置也舊約書中ニ天主兵カヲ助ケテ敵國ヲ亡セシ例シ多シ耶穌ノ昇天後ニモ其例數多アリ是ヲ以テ證スベシ

此一件之語天主教ヲ入レテ國ヲ奪フ種トスルノ意ヲ寓セリ豈恐レサルヘケンヤ夢ニモ

皇恩ヲ忘レテ^敵國ノ爲ニ驅使セラル、事

勿レ



舊約全書中ニ開闢後一千五百五十六

年ニ當リテ洪水出テ全世界ノ人類悉

ク滅没シ獨リ諾厄ノ一家八人助命ヲ

得其三子ヨリ普天下ノ人類再ヒ滋蔓

シ亞細亞洲ハ即チ其長子セムノ子孫

也ト

余常ニ謂フ此洪水ハ長曆ヲ按スルニ支那ニ於

テ帝嚳八年ニ當ル或人曰堯ノ時ノ洪水也ト云

何レニモセヨ支那ノ人類此時滅絶セサルハ

詩書易傳等ニ就テ歴々見ルベシ且西洋ノ史ヲ

編ムハ摩西ヲ以テ始メトス摩西ハ洪水後凡一

千余年ノ人又西洋文字ノ起源ハ勿擲齊國ニ始

リテ摩西ノ前統數百年摩西ノ國ナル如達亞ニ

傳ハル然レハ摩西何ニ據テ洪水ノ前ノ事實或

ヒハ天地開闢ノ光景ヲ知ルヤ此レ人ノ能ニ非

ス天主ノ黙啓ニ出タル書ナル故ニ聖書ト稱シ

テ疑フベカラズト云ハバ右洪水之事等後世ニ

至テ事實ノ遷庭アルハ如何余上海ニ在ル時是

等ノ疑問ヲ設ケテ教師レモニイ

佛人也巴里ノ大学
校ニ於テ撰ハ奉セラレ

亞細亞洲中大教院新加坡ノ教官也
時ニ病ヲ抱テ上海三德堂ニ居タリ

二問答ニ及ビシニ

レモニイタルトヒストリイト題セル

古史ヲ出シ此書我教門ニ於テハ偽書

ト立タル書ナレト原書ハ極テ古キ

書也トテ其中ニ載セタル一條ヲ讀ミ

聞セケルニ洪水之後二百年之間亞細

亞ノ西部人民未夕繁カラズ人事モ亦

閑ケス巴比倫建國之始ノ蒙古人種葱

嶺ノ麓ニ隨テ遊牧轉移シテヨリ宮室

器具モ閑ケタリト云ト書ケリ

瀛環
志畧

ニモ此ト符合
スル説アリ

後此書ノ事ヲ諸教師ニ問ヒケルニ皆知ラスト
答フ

獨リルカイ教師云其類ノ書種々アリ

ト雖皆人之手ニ成リタル書ニシテ摩

西ノ史ハ天主ヨリ出タル聖書ナレバ

真偽ハ瞭然タリ

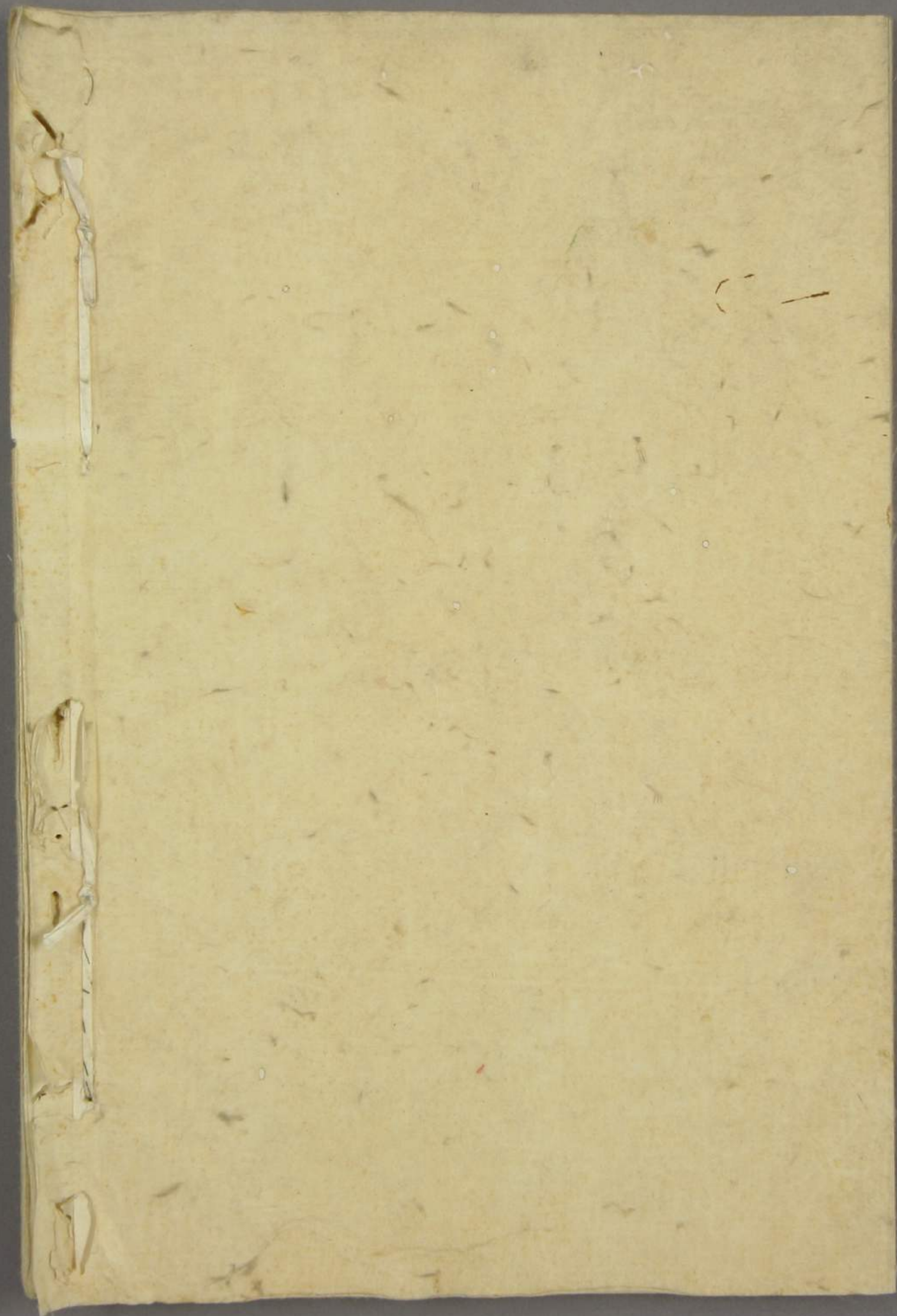
舊約全書ヲ天主ノ黙啓トカ云テ聖書ト稱シ

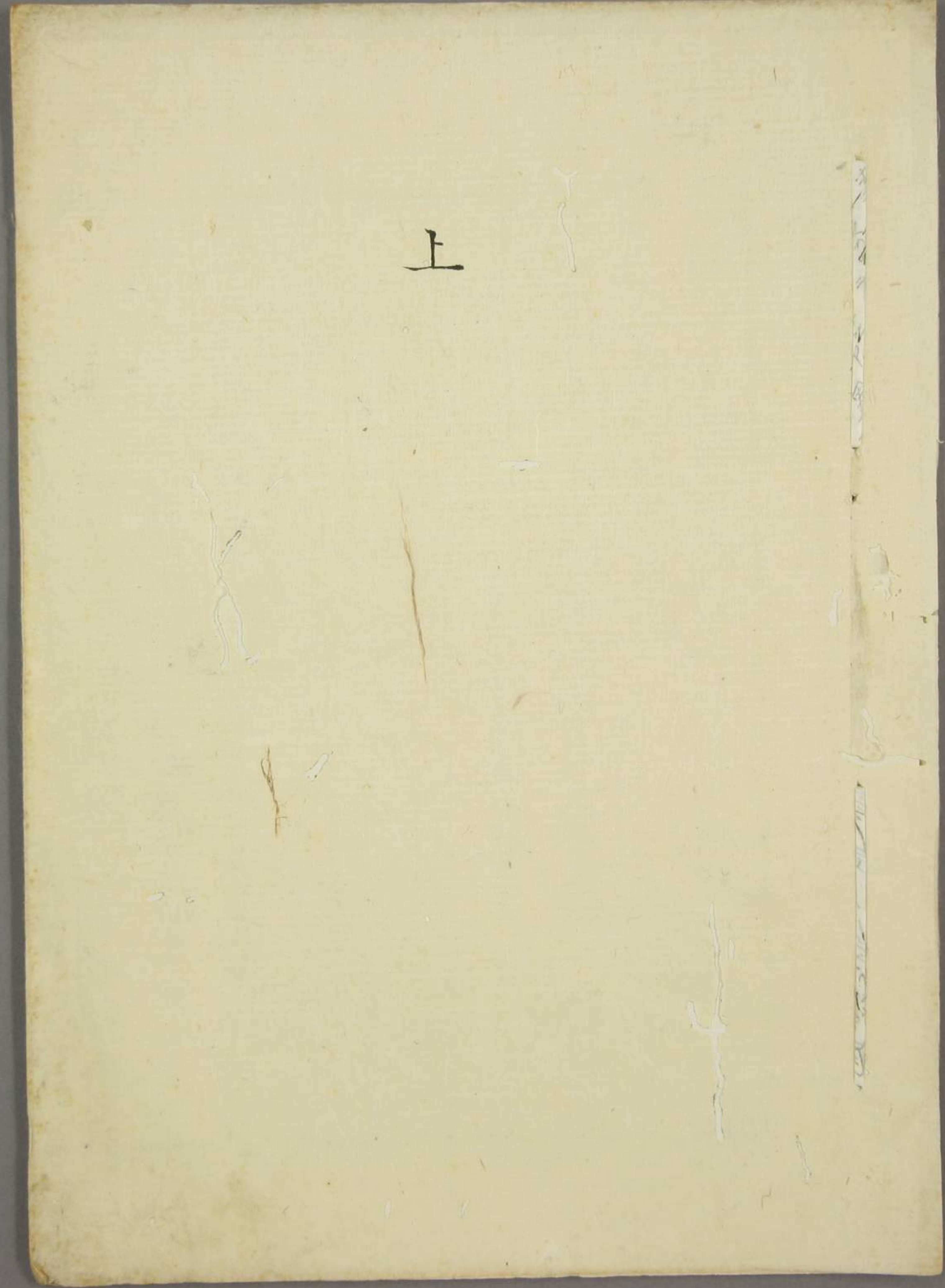
全世界ノ正史也トスルヲ笑フヘシ此他杜撰

多キ事牧者ニ違アラズ若シ條ヲ追テ問フ者

アラハ余一々辨解セシ

辨正洋教第二輯終





上



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄附

先般諸縣へ御預相成候肥州浦上御異宗徒ノ義ニ付其ノ筋
言上左ノ通御座候

彼徒素リ愚蒙ノ旗ニシテ一心宗教ヲ尊信シ 朝威官命ヲ
モ恐レサル頑民誠以テ 御國体ノ瑕瑾ト奉存候今以依然罷在
候哉今般教部省被立置教法御更立ノ今日ニ當リ頑民トハ
申ナガラ此僣閣カレ候モ遺憾ノ至且彼等保護ノ爲莫
太ノ官費ニ相成候改竄以不謂次第ニ御坐候然ニ臣愚
本縣ニ於テ説諭致シ其切彼等私共愚昧ノ者ニシテ御役人
ノ仰ヲ承レハ御尤ノ如ク承知仕候人共彼教師ノ申セシ處モ亦左
ノ如ク相心得居候儀ニ付此上ハ彼教師ト御談判被仰付彼教師

ヨリ御役人ノ仰セ御在ナル由被申候ハ如何様共可仕此近身命家
財ヲ拖テ罷在候義ニ付多恐候得氏御請仕難キ由申出統テ彼等
愚直ノ民ニシテ先入ノ説ニ確守シ説諭スル所ノ是非ヲ弁別シ得サ
ルノ体ニゴザ候然レ度上京仕阿部真造ト申者尔未彼宗ノ徒ニ
テ殊ニ浦上郷ノ諸民ヲ扇動セシ巨魁ナル由ニテ此節飯頃ヲ唱へ在京罷
在由兼リ候ニ付再三面會仕リ竊ニ愚慮仕候処彼者素リ良民ヲ
狐惑シ許多ノ國害ヲ釀成仕候罪實以不容易候へ共今彼真造ヲ
シテ彼宗ヲ省破シ改過飯頃セル所以ヲ述テ先ニ誘導セシ所ノ者ヲ
後悔スル由ヲ以テ説諭致サセ候ハ自然悔悟改心ニモ可相赴哉右様相
成候ニ於テハ諸縣莫太ノ費用ヲ減シ且教部ノ 朝意モ相立可申哉

ニ奉存候

但右真造義公然飯頃ヲ申唱候へ氏異宗ノ義ニ於テハ大害ヲ
釀成シ候者ニ付改過ノ実跡相見不申内ハ真造一人御差
立相成候モ無覺束義ニ付右件若シ御採用相成ニ於テハ可
然官身一兩名御差添相成説解ノ次第一々申合ノ萬一異
心有之候共内情不通様監護致シ飯頃ノ実功相立前
罪萬分ノ一ヲ贖ハシメ候様御執事有之度候事

右ノ段宜御詮義ニ付奉存候 以上

壬申

八月廿七日

訓導

宮地 嚴夫

同

山本 敬玄 謹言

東
西
部
管
長
殿



上

明
正
年



天正十一年四月贈

一 應接ハ権威ヲ省キ温平和順ヲ旨トシ實意ヲ以テ感動セシムル様注意致ス事

一 阿部真造久シク彼宗ヲ信シタリシカ左ノ條ヲ以着破シタル故ニ新ニ其徒ヲ説諭セシ事ヲ聖出御差立相成候趣ヲ述シムル事

但避邪ノ為ニ彼宗ニ入居リシ由ハ変シテ云ハシムヘカラス

一 彼教古傳實地ニ相違アル事

一 彼教ハ西洋一派ノ教ニシテ普天下ノ教ナラサル事

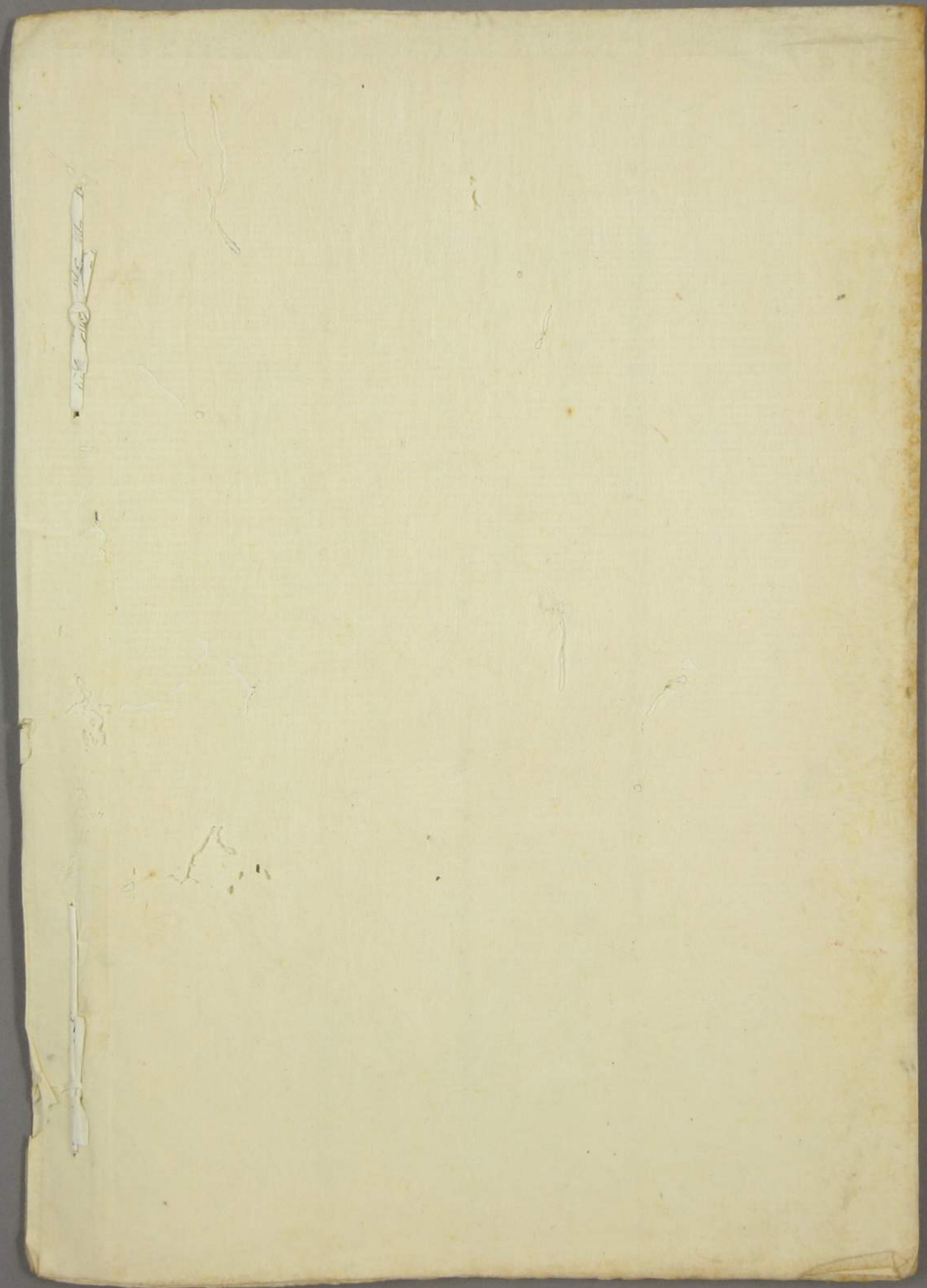
一 彼教ハ耶蘇ノ権道ヨリ出テ後來ノ僧官ノ子ニ成タル事

- 一 彼教西洋ニ於テ既ニ衰微ニ趣ク事
- 一 彼教天地ノ大道理ニ適ハサル事
- 一 彼教 皇國体ニ悖戾スル事
- 一 皇教ハ諸教ノ及フカラサル正教タル事
- 一 當時西洋ノ善美ハ悉ク御採用相成 御受体ナルニ特リ
- 教部省ヲ立ラレ彼教御採用ナラサル 御趣意ニ注
- 意スヘシト云事

右ノ赴ヲ以前后緩急或ハ集メテ是ヲ論シ或ハ親立
 両三名ヲ説キ彼等ヲ説得テ彼等ヲ以一同ニ解シムル
 等統テ臨時ノ見斗ハ預メ期シ難ク候事

壬申
 九月十五日

宮地 嚴夫
 山本 敬玄



河部真造

冲谷書

以松之糸



大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

皇宗信仰者ありて後深き大畏たを中云

一才一 朝廷に沛仁意と旨と 温和寛之と云

後深きと云

一 新設教之年、向為く道信と也と願 彼等と親く

交接仕居は有れ故者故と悔惜しし情實と懇切

無解のり

法王教師の地位せしむる事

一 彼教の宗徒の悪く邪説の起る天地の心理

ありし事

一 皇教の原由の最古の事

一 皇國神の天地の心理の確證 彼教の我國神の大害

ありし事

一 國法を背して押入る事 西洋の神の心理の

一 佛蘭西國の政府の布告教理の事 有るは

教師を拒むる事 不相成りし事

一 教師を本國におくはる政府の天皇の同代書法と

守りし天皇の詔書と 唯他國の如き書との

國法を背して天皇を尊ぶる事

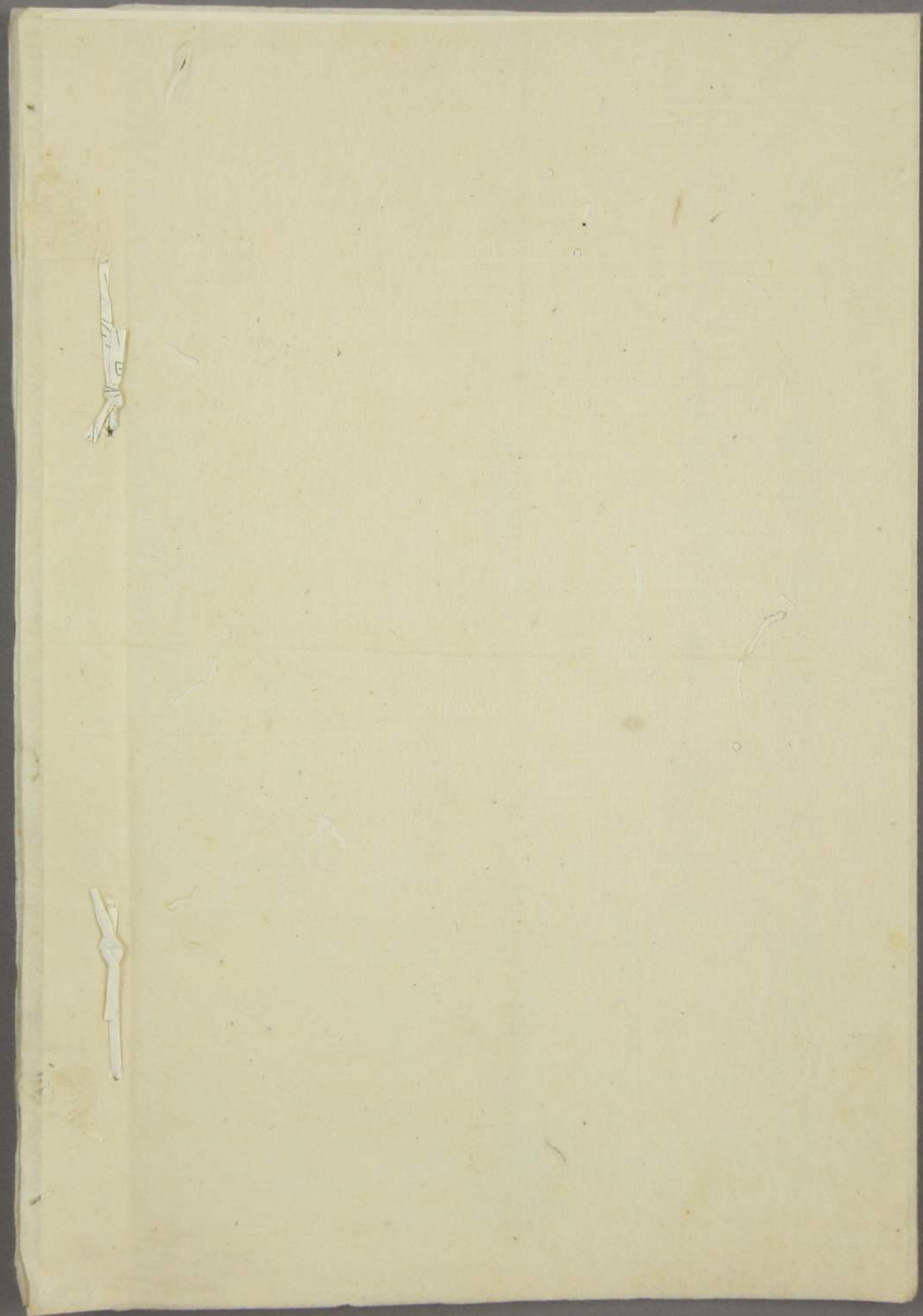
布衣大凡一總領與相其時宜適以說瑞可結身
神下同身不取教以所書中上惟以

壬申

九月十八日

阿部真造





長崎

長崎縣管下平民

東京寄留 阿部真造

右長崎縣浦上村土人諸方此紙地
方は旧先高知縣の郡下為説諭
上被當者官員進出申付程右同人
儀一日に當りて其の多きを古くは法に依り
て當りて十三等と積りて以て渡

文部省

大正十一年四月
大隈侯爵邸藏



壬申十月五日 教部右輔里田沼綱
度光院申進形也

教部右輔里田沼綱
教部右輔里田沼綱

正院

西中

高知縣山口縣へ旅行日當是手當三六
月分十三等之積り

一金百九拾九圓五拾錢

是ハ高知縣迄貳百三十貳里同縣ヨリ

山口縣迄七拾五里山口縣ヨリ東京迄貳百

六拾三里合里數五百七拾里日數五十七日分

但一日金三圓
五拾錢

一金四拾五圓

是、高知縣、三十日山口縣、三十日滞在
日當合六十日分但一日七拾五錢

一金六拾圓

是、手當一ヶ月金貳拾圓、積)

合金三百四圓五拾錢

右之通帳也

壬申十月

長崎縣管下平民

東京寄苗 阿部真造

右長崎縣浦上村土人諸方出致地
之之内先高知外山口各作為泥論
之致為者官員巡迴申付程右
日人儀一回至其此之何多ハ其送旅
行之高之十三等之積り品出渡

大正五年四月贈月

阿部真造



五年此程大藏省出達有之
此程申准之也

教部大輔黑田清綱

壬申十月廿日 教部大輔宍戶 璣

教部卿嵯峨實愛

正院

只申

高知縣山口縣旅行日當共手當三
ヶ月分十三等之積リ

一金百九拾九圓五拾錢

是ハ高知縣迄貳百三十貳里同縣ヨリ

山口縣迄七拾五里山口縣ヨリ東京迄貳百

六拾三里合里數五百七拾里日數五十七日分

但 一日金三圓
五拾錢

一金四拾五圓

是日高知縣八
三十日山口縣八
三十日滯在

日當合六十日分
但一日七拾五錢

一金六拾圓

是日手當一月
金貳拾圓，積

合金三百四圓
五拾錢

右之通此也

壬申十月

別府州等之邊者其山即致云及阿致
其邊之皆縣之河視之其流之內高之縣
之為河之流者為致之係情之理通者之
融之其系統政之係縣之其流之其水
其流之其以上係之其者其致之其水
出之其流之其係之其流之其係之
其流之其係之其係之其係之其係之
其流之其係之其係之其係之其係之
其流之其係之其係之其係之其係之

大正十一年四月

實定

田

田

故下首



水何如也

壬申十月

西苑檀少卷四平山者林

中教正上秋有美

松余山邦

本館口 本館多美

本館初流

西苑之卷四 中教正上秋有美

本者 湯中



卷四



リし市中華細細一任教師一は是等ニまゝにし且其を以て行ノ
人川田年也
田手香左し市中華教二ありし為巨細二は後二を二す

大坂日記
明治六年二月十八日

一ウリヤムス二月一日ヨリ学校ヲ開規則如左

九字ヨリ 語学 教師メラー

十一字ヨリ 算術教師クインビー

一字ヨリ バイブル教師ウリヤムス

三字ヨリ 語学 教師モリト 最後ニ歌吹ヲ授リ

張紙ニ曰

一何事ニヨラス 教師ノ言ニ背ニシリト是

一席ヲ轉スヘカラサル也 已下畧之

一女教師三人アリ 婦女子ニ縫針語学ヲ授リ

生徒ハ十五人ナリ 追テ三百人キヲ容ルノ学舎ヲ設ル

ナリ 止宿生飯代等二月謝一万余ナリ

一キヨリキ コラテン 学校 午後一字ヨリ 四字迄 語学
ハイフル歌吹ヲ授リ コラテン 兼テ醫ヲ施ス 生徒
七十人キ アリ 尙忠三執事タリ

一神戸学校亦右ノ規則ナリ 生徒七十余人アリ 尙母三
執事タリ 病院亦盛ナリ 新山耕造 坂本一以 執事

一ヨリ 専ラ 翻訳ス 迄 日ニ早禱 晚禱ヲ 上梓ノ 積也
今井正篤 中林喜市 日々剛 補ス

癸酉二月

先日言上仕候諸縣御預相成居候異宗徒説得ノ
儀阿部真造ニ於テ精々尽力仕リ 朝恩ニ報シ奉ニ
ト憤発罷在由申出候間若シ御採用於相成ハ前書言
上ノ情実モ有之候ハ驗ノ為先高知縣御預ノ徒説諭
仕ラセ実功相立候ハ漸々諸縣ニ及ホシ候様有之度
又々奉言上候以上

壬申九月七日

訓導 同 宮地嚴夫 謹言
山本敬玄

西部管長殿

大正十一年四月
腰候爵郵寄贈



